



紋別成長戦略ビジョン

概要版

次世代につなぐ責任と誇り
みんなが担う紋別のまち

2016年2月
紋別商工会議所

紋別成長戦略ビジョン策定の趣旨

■ビジョン策定の背景

人口減少時代

将来への不安から
消費・投資をひかえる

地域の経済力の低下

負のスパイラルからの脱却

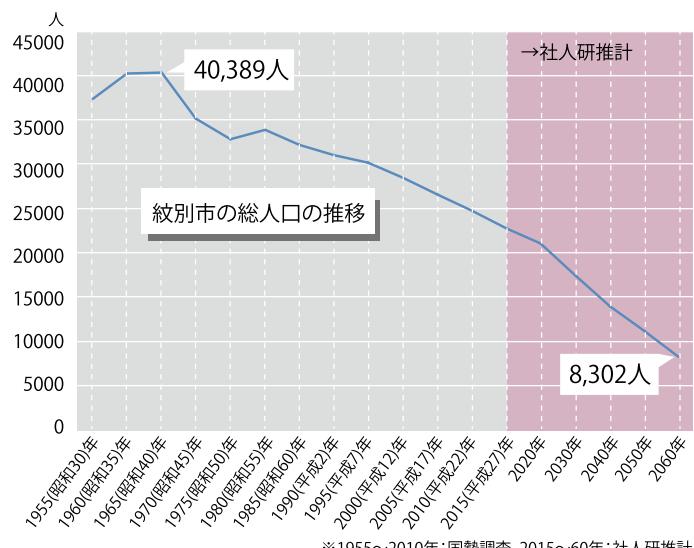
紋別の目指す方向やともに行動する目標を共有
挑戦していく意識を醸成

↓
紋別成長戦略ビジョン

■紋別地域の現状と将来

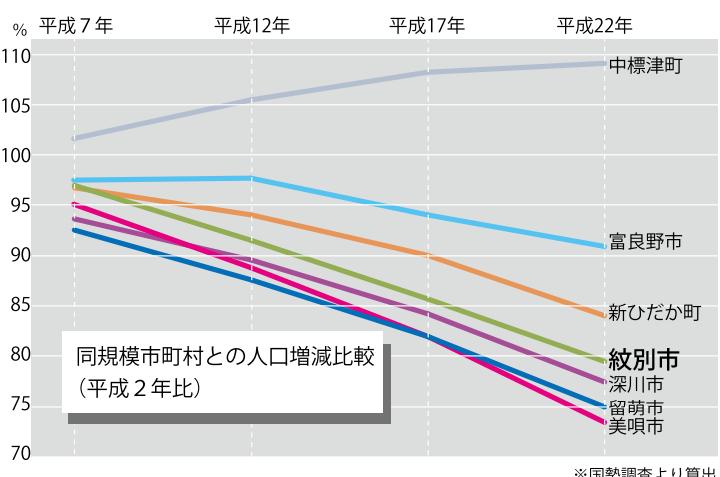
人口減少が続く紋別

紋別市の将来人口の推計は、国立社会保障・人口問題研究所から、2040年に13,998人、2060年に8,302人という推計が出されています。また、日本創生会議からは、2040年に12,197人という推計値が示され、人口減少が続くことが見込まれています。



他都市との比較から ～都市サービス機能の強化と観光産業がかぎ～

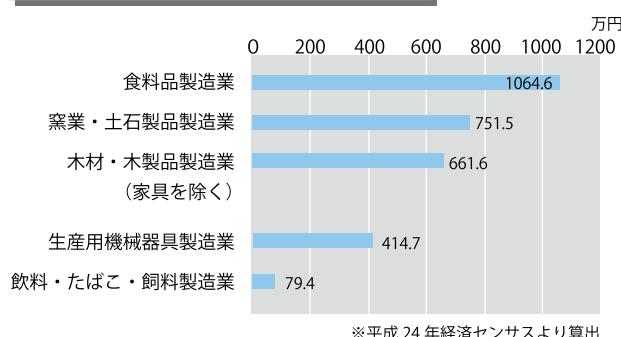
北海道内の同規模の市町村で、唯一人口増加を続けているのが中標津町で、減少率が低いのが富良野市です。その要因を考えると、中標津町は周辺の一次産業地帯に対する都市サービス機能の強化による成長の持続、富良野市は観光産業の集積が低下を防いでいると推察されます。今後の紋別の成長戦略は、周辺地域の幅広い需要に応えていく都市サービス機能の強化による産業、雇用創出、さらには交流人口の拡大による消費拡大と関連産業の創出を目指していく方向の重要なが浮かび上がってきます。



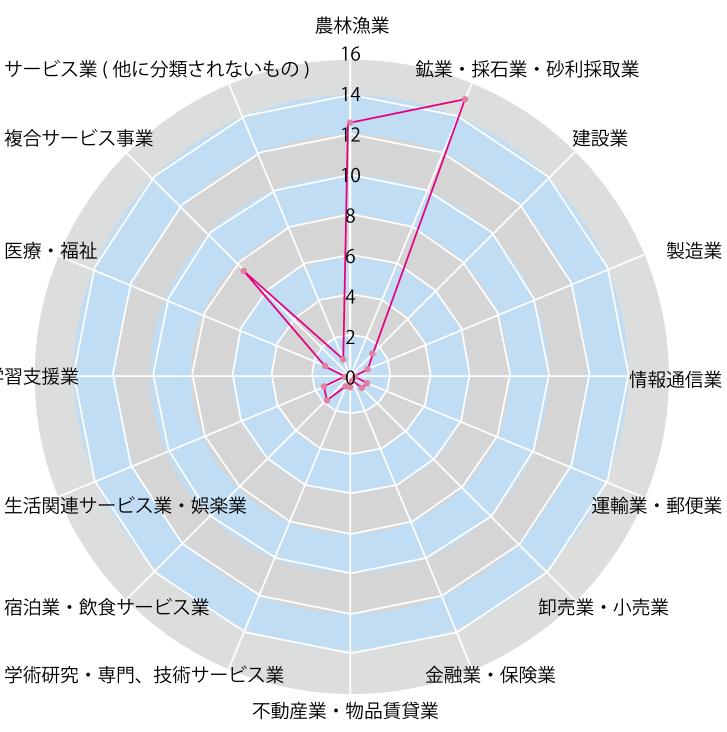
一次産業とそれに付随する二次産業に競争力

紋別市の産業構造の特性を産業別就業人口割合でみると、最も就業人口が多い産業は製造業で、2番目が卸・小売業、次に医療・福祉産業、建設業の順です。地方圏の都市では公務や建設部門の比重が高い傾向にありますが、紋別市は水産加工を中心とする製造業部門と一次産業の割合が高いのが特徴です。また、産業構造特性を経済付加価値ベースで見ると、特化係数が高いのは農林漁業、砂利採取・鉱業・採石業、複合サービス事業です。製造業の労働生産性は、食料品製造業が最も高く、次いで窯業・土石製品製造業、木材・木製品製造業(家具を除く)となっています。

紋別市におけるおもな製造業の労働生産性



紋別市における付加価値の産業別特化係数

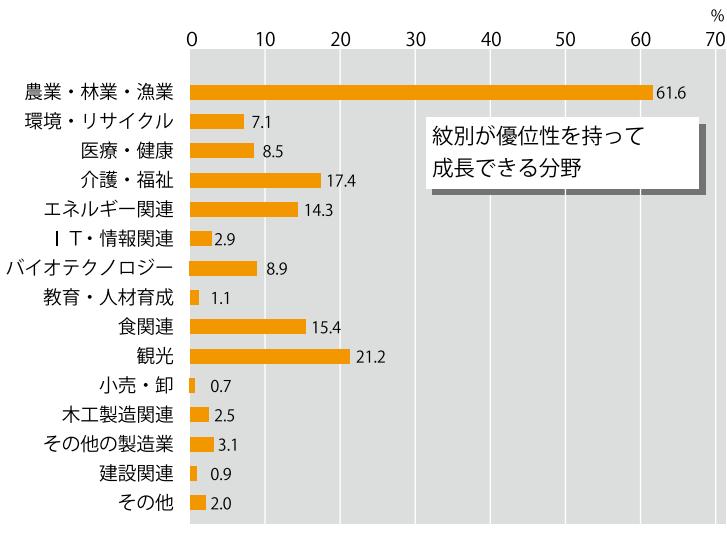


商工会議所会員アンケートから

紋別の優位性は一次産業

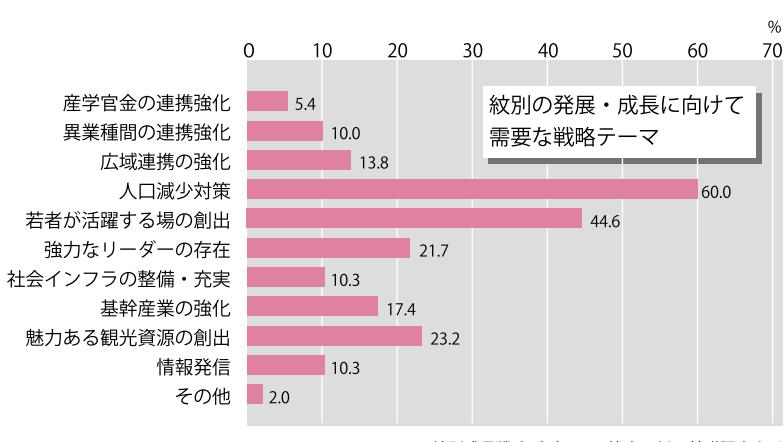
本ビジョン策定の基礎資料収集のために行った会議所会員へのアンケートでは、今後紋別が優位性を持って成長していく分野は「農業・林業・漁業」の一次産業と回答した会員が圧倒的に多く、次いで「観光」「介護・福祉」「食関連」となりました。

■紋別成長戦略ビジョンの策定に係る基礎調査
【調査対象】紋別商工会議所会員
【調査時期】2015(平成27)年6月末～8月10日
【調査方法】郵送調査と聞き取り調査を併用
【回収率】50.3% (配布数891、回収数448)
【調査内容】企業概要、経営状況、紋別成長戦略ビジョンについて、商工会議所への意見など



人口減少対策、若者が活躍する場、観光産業の創出を

また、紋別の発展・成長に向けて、重要な戦略だと思われるテーマは、「人口減少対策」が圧倒的に多く、次いで「若者が活躍する場の創出」「魅力ある観光資源の創出」「強力なリーダーの存在」「基幹産業の強化」などが挙げられました。



成長戦略の基本的な方向

紋別地域が一体となって地域全体の経済力を強化し、
市民の一人ひとりの所得が向上するとともに、
安定した雇用機会の創出される地域社会の形成を目指していきます。

人口減少対策

若者が活躍する場の創出

一人ひとりが豊かで
快適な生活を送る
安定的な所得と雇用の確保

域外からの
需要の取り込み
(外から稼ぐ)

域内の需要の
流出を防ぐ
(域内でのマネーの循環)

地域内での有機的な結びつき
(連携)

- ①地域資源を生かした安定的な経済需要の創出
- ②紋別の地勢特性を活かす
- ③成長を支える基盤の整備と活用

インバウンド観光消費の拡大

農水産品の移出・輸出

地場産品での観光客のおもてなし・商品開発

高速道路ネットワークの整備

自然災害の低リスクを活かした企業誘致

地域エネルギーの活用

羽田直行便を活かした首都圏需要の取り込み

地産地消の推進

特異な自然環境条件を活かした研究機関の誘致

6次産業化の推進

地域資源を生かした安定的な経済需要の創出に向けて

1. 農林水産業の強化と関連産業の展開

将来に向けて豊かな農水産物に支えられた紋別の食産業の優位性をさらに伸ばしていくとともに、安全性や高い品質を求める市場ニーズに十分に応える生産・加工体制の強化を図っていくことが重要です。さらに、林業生産物の多面的な利用を図りながら基幹産業として強化を図り、関連産業、周辺産業への波及効果の拡大を目指していくことが必要です。

施策の方向1 / 安全・安心な農畜産物の供給

酪農や肉用牛の経営基盤の強化とともに、畑作物の安定的な生産維持・拡大を図るため、耕畜連携による合理的な輪作体系の展開を進めます。また、国際環境の変化を見据え、経営の体质強化や効率化、消費者に信頼される安全・安心な農畜産物の供給を目指します。6次産業化による紋別産のブランド力向上や各関係機関との協力による担い手の育成・確保に努めます。

施策の方向2 / 水産業の強みを生かす

流氷の海で育てられた紋別の水産資源は世界に誇る味覚です。今後もホタテ、サケ・マスなどの栽培型沿岸漁業を中心に、「育てる漁業」に向けて基幹産業である水産業の安定的な発展を図っていきます。また、リスクに強い漁業生産の安定化と次世代を担う人材の育成にも努めます。漁港や市場における冷蔵機能や衛生設備の拡充により、鮮度の向上に努め、紋別の海産物ブランド力を向上させていきます。地球温暖化等環境変化による魚種変化には、流通や食関連産業と連携した新たな製品開発等について、積極的に対応していく必要があります。

施策の方向3 / 林業の多面的機能の発揮

豊富な林業資源の計画的な管理を進めながら、林業生産の効率化を進めます。さらに日本一の認証面積率を誇る「緑の循環森林認証(SGEC)」によるブランド化を進め、ブランド力を活用した製品化を推進します。また、再生可能エネルギー資源としての利用や北方木材の樹種特性を活かした、良質な木材原材料の提供や木材加工の展開を図っていきます。



紋別市内のSGEC認証見本林

施策の方向4 / 水産加工業の安定化に向けて

水産加工業は紋別経済をけん引する基幹産業です。より一層の高次加工を図りながら、安定的な成長を目指していきます。一方で、国際的な資源管理の秩序が変化し、加工資源の安定的な確保に向けた取り組みが必要になっています。販売形態や流通の変化に機動的に対応し、ブランド化による新たな市場開拓や人材の育成確保に努めています。



施策の方向5 / 高付加価値化、ブランド化と域内連関力の強化

地域内で生産から販売までを一貫して行することで、地域全体の産業力を高め、それによって紋別ブランドを幅広く浸透させていきます。特に、食産業のブランド化は、道内他地域との差別化が重要です。地元唯一の研究機関である水産試験場の知見を活かし、有効な多面的戦略の展開を図っていきます。 紋別港を臨む場所に工場と店舗を設置して販売まで行っている水産加工業者

施策の方向6 / 域内消費の促進と地域産業の育成、強化

地域の消費者が地域内で生産されたものを購入する機会を増やし、経済循環を高めていくという意識を持ち、それによって域内のマネーフローを高めていく戦略が大切です。食の地産地消、木材資源の活用、再生可能エネルギーに着目した地域エネルギーの活用など、新産業の創出にも努めます。生産者や事業者が強い向上意識を持って消費者に向き合うことで新たな生産部門を成長させ、競争力のある稼げる産業を育っていくという考え方が重要です。

施策の方向7 / 域外市場開拓～アジア市場等への販売力の強化

東アジアを中心とした国際市場に向けて、競争力のある力強い食産業の構築が重要です。そのために、紋別の豊かで高品質な生産物や加工品を効果的に売り込む仕組みづくりを地域が一体となって推し進めていきます。

施策の方向8 / 地域産業としての建設業

社会インフラの整備・維持を担うだけでなく、経済生産額や雇用力の大きさなど、地域経済を支える力として大きな役割を果たしているのが建設業です。建設業は日常の催事や非常時の災害救助など、幅広く地域社会を支えている地域産業で、今後も建設業が地域産業として安定的に活動できるよう、人材の育成確保を図るとともに、幅広い分野への展開を進めています。

2. 観光産業の展開

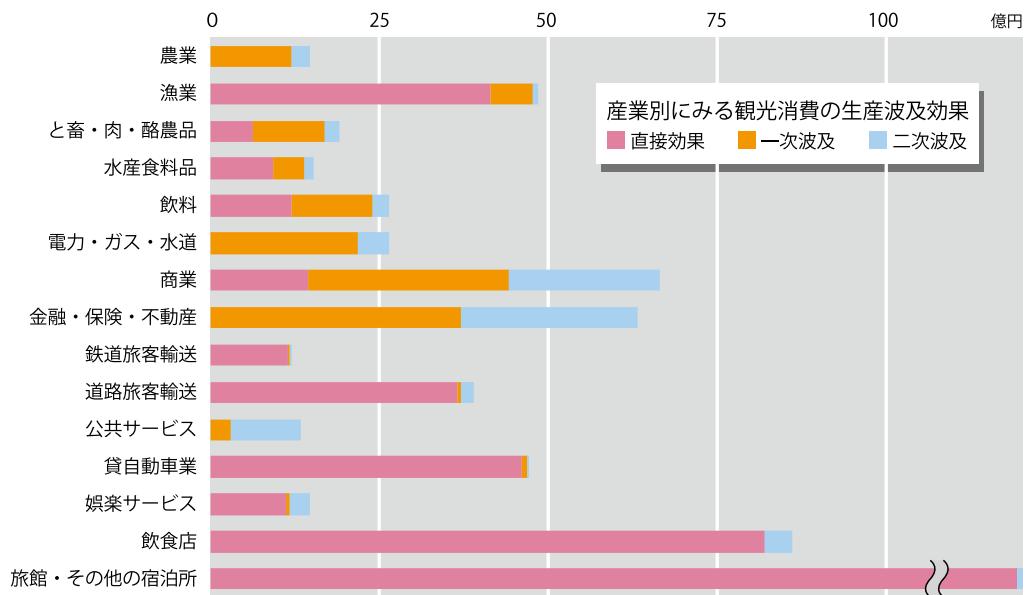
観光は地元の食材を活かした食関連産業の展開や地元産の土産品の提供などによって域内の循環力を高めていくことができるだけでなく、旅行者の満足度を向上させることで次世代の域外需要を生み出す可能性を秘めた地域産業としての優位性を持っています。観光政策を有効に展開していくことは、域外需要の取り込みと地域資源を活用した域内循環を進めながら地域経済の強化を目指していくことにつながり、重要な戦略です。

施策の方向1 / 域外からの消費を高める戦略～集客から消費へ

観光集客を図るだけではなく、観光消費を高めていく視点と戦略が必要です。滞在時間の長期化、消費意欲を高める生産物・商品・サービスの提供など、観光客の消費機会を増やしていくことが大切です。

施策の方向2 / みんなで取り組む体制づくり～観光産業は地域産業

観光産業を推進することで、その経済効果はホテル・旅館、交通機関や飲食店だけでなく、商業や金融・保険・不動産業、一次産業など、幅広く地域の産業に広がります。観光産業を推進する上で大切なことは、観光消費が地域の幅広い産業に効果を及ぼしていることを地域の皆さんのが理解することです。地域産業全体で観光に取り組む意識と体制づくりが必要です。



※「地域観光の地域自立型産業への展開に向けての研究」（釧路公立大学地域経済研究センター）より

施策の方向3 / インバウンドなどの観光需要の増加への対応

国内の人口が減少する中では、海外からの観光来訪者（インバウンド）を受け入れることが重要な戦略テーマです。チャーター便の誘致や羽田直行便を活用したインバウンド戦略の検討と受け入れ環境の整備に取り組んでいくことが必要です。また、東北海道の広域的な観光周遊ルート「アジアの宝 悠久の自然美への道ひがし北・海・道」に基づく取り組みや2016年3月に開業となる北海道新幹線利用客に向けた検討も進めます。



市内のホテルで餅つきを楽しむ海外観光客

施策の方向4 / 地域資源の発掘、活用

最近の観光は住民とのふれあいや心のこもったおもてなしなど、地域の風土や気質、暮らし方から生まれた独自の風習など、ありのままの姿を活かした観光資源が重要になっています。そこで、埋もれている地域資源を発掘し、活用策や独自のイメージづくりが課題となっています。

【紋別の潜在資源活用の一例】

- 歴史的な産業資源である鴻之舞金山の再生
- 大正15年に建設された「日上紋別駅舎」
- 北海道開拓期の歴史的遺産である駅舎
- 自然資源として魅力あるコムケ湖や原生花園でのバードウォッチング、フットパスなど
- キャッチ・アンド・リリースの先進地である渚滑川のフィッシング
- 地元の水産物の水揚げ見学や農業体験ツアー、朝市の開催や屋台の開設など
- スカイタワーの活用による雲海見物など
- 紋別の水の発信、販売
- 花ガーデンの拠点づくり



秋にはサンゴソウでおおわれるコムケ湖周辺



施策の方向5 / 魅力ある“道の駅”機能を有する交流拠点の整備

紋別の経済活動を発展させるために必要な社会インフラ整備については、会員アンケートでも「道の駅などの施設整備」を求める声が多くありました。

紋別の現在の道の駅は、中心部から離れており域内外の集客拠点としての機能を十分果たしていません。新たな観光拠点、さらに都心再生の拠点としての役割を担う道の駅、あるいは道の駅の機能を活かした新たな施設整備、または現在ある施設の再生などをにらみつつ、魅力のある道の駅機能を持つ新たな交流拠点のあり方について、早急に検討を進めていく必要があります。

魅力ある “道の駅” 機能が地域を元気に

道の駅は2015年4月時点で全国に1,059登録されており、平均で2億円以上の売上げがあり、地域のビジネス拠点となっています。駐車場やトイレの利用だけでなく、地元産品や新鮮な野菜の販売、さらには地元の食材を使ったレストランなどで人気を高め、地域外からの観光客だけでなく地元から高い集客効果を得ている道の駅も少なくありません。また、「フランマルシェ」のように中心市街地の空洞化で失われてきた都心の新たな核として、道の駅の機能を持つ独自の施設を整備する動きも見られています。



カフェ、物産店、農産物直売所、テイクアウトショップがある「フランマルシェ」

施策の方向6 / シーニックバイウェイの活用

紋別の観光戦略では、幅広く他圏域と連携した広域観光ルートの開発が重要です。現在候補ルートとなっている層雲峠・オホーツクシーニックバイウェイルートを活用しながら、道央圏・旭川圏との連携による新たな観光流動を開拓していくことが大切です。当面はインバウンドの個人客増加に対応した外国語情報の充実、レンタカー利用者に向けた魅力あるルート紹介、ルート内に点在する素材を結びつけた商品化の取り組みを進めていくことが必要です。



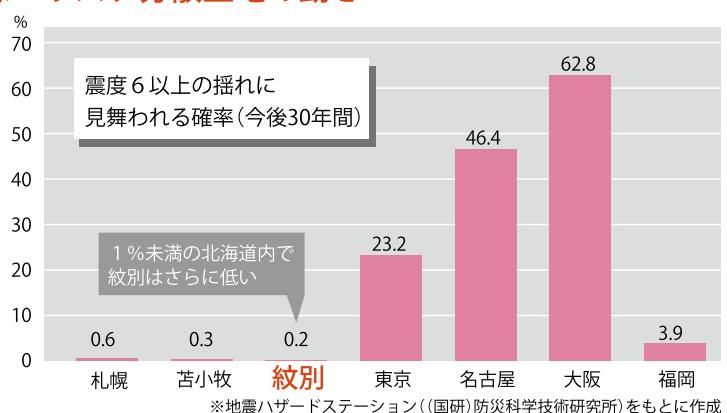
シーニックバイウェイのPR活動

3. バックアップ機能立地、資源生産地としての立地戦略

21世紀に入り、ICTの進展によって地方の立地ハンディが軽減され、ゆとりのある自然環境を享受できる地方での居住環境に関心が高まっています。また、巨大災害への対応によるリスク分散や食料生産地での食品加工工場の立地など、地方の新たな役割が求められてきています。これらの新たな動きを受け止めた立地戦略を進めていくことが必要です。

施策の方向1 / 「地震のないこと」は大きな資源～リスク分散立地の動き

東日本大震災の経験から、民間企業では安定的な事業継続に向けた動きが加速しており、北海道はリスク分散の適地として評価が高まっています。紋別は道内の他地域に比べても大きな地震が少ない地域であり、その情報を全国に発信するとともに、企業誘致を進めていく必要があります。



施策の方向2 / 食の生産地域への立地の動き

最近北海道では、豊富で良質な食資源に着目した企業立地の動きが見られています。紋別においては、古くから関西の著名なカニ料理店が仕入れ地である紋別に加工工場を立地するなど、消費地と生産地が連携する実績があります。これらの経験を活かしながら、消費地での消費効果をより多く生産地に還元する仕組みをつくり上げていく必要があります。



地元の水産加工場

施策の方向3 / データセンター等の寒冷地への立地の動き

データセンターは、金融や物流をはじめ、様々な分野で企業活動や国民生活を支える重要な社会インフラとなっています。現在、その7割が首都圏に集中しており、大災害に備えた対策が喫緊の課題です。災害リスクが低いことに加え、省電力を可能とする冷涼な気候である紋別の優位性を活かし、データセンターやバックオフィスなどの誘致を進めていく必要があります。

国内最大級のデータセンターが北海道に

大阪に本社があるさくらインターネット社は、平成23年に石狩湾新港地域に国内最大級のデータセンターを開所しています。冷涼な気候、今後30年間の地震の発生率の低さ、通信インフラ、変電所からの近隣性などから立地を決めたといわれています。気候、土地、首都圏からの交通利便性などから、紋別でも可能性のある分野と考えられます。



石狩湾新港地域に開所したさくらインターネット社のデータセンター

施策の方向4 / 食糧備蓄、供給体制の強化

生産地主導の出荷や流通をうながすために、農水産物の集出荷・貯蔵施設の整備を進めるなど、備蓄や物流機能の強化を図っていきます。特に、水産物の出荷・貯蔵は、氷温冷凍での保存・輸送技術を積極的に活用し、年間を通じた原料確保による通年加工の実現と高付加価値化を目指していく必要があります。

施策の方向5 / バックオフィスの立地、避暑地の長期滞在から移住への対応

情報通信機器を使って、会社を離れて仕事を行う「テレワーク」の動きがみられています。紋別の空き施設を活用したサテライトオフィスの誘致を進めています。さらに、夏場の猛暑を避けて北海道に長期滞在する動きが見られているので、地元のホテル・旅館に加えて、アパートや公営住宅・空き家の有効活用などによる受け入れの体制の整備をしていく必要があります。

4. 商業振興と中心市街部の活性化

紋別市の成長に向けては、広域生活圏の中核としての都市機能の強化が重要です。そこでは周辺地域を含む購買需要を取り込みながら、商業の振興を図っていく商業政策との連携が欠かせません。中心市街地の商業活性化は、紋別の都市機能の魅力につながるとともに、周辺地域からの消費を呼び込み、合わせて観光来訪者による消費機会を高めていく場にもなります。多くの市民や観光客が気軽に活用できる交流の場や機会を増やしていく工夫や挑戦が必要です。

施策の方向1 / 中心市街部の活性化に向けた取り組み

紋別市においては平成25年5月に「紋別市まちづくりビジョン」が策定されており、その着実な推進が必要です。商業機能との連携による中心部の活性化に向けては以下のよう取り組みが想定され、相互連携しながら進めていく必要があります。

【想定される取り組みの一例】

- 中心部の空き店舗を活用した企業意欲のある若者、女性等の育成のためのチャレンジショップの開設
- 「地元のものが地元で食べられる」魅力を積極的に発信
- 地場の農水産物を定期的に提供する中心市街部での朝市の開催
- レトロな「はまなす通り」の魅力発信に向けた取り組み
- まちなか移住の促進
- 新たなまちなかイベントの提案、挑戦
- 分かりやすいマップやHPの作成による魅力情報の発信
- 街並みの景観整備、「みなとまち」紋別の魅力発信
- 「まんぶく横丁」の積極的な活用
- 街ゼミの経験を活かした魅力ある店づくりと情報発信
- 中心市街地活性化の成功事例の視察
- インバウンド向け免税措置の導入



紋別商工会議所青年部が主導している
「まんぶく横丁」



レトロな魅力を発信できる「はまなす通り」

屋台村の魅力でまちなか再生

青森県八戸市には、新幹線開業を契機に誕生した八戸屋台村「みろく横丁」があります。ないものはねだらず、地域の伝統や資源を生かそうと、帯広市にある「北の屋台」などを参考に新しく開設された屋台村で、地元の人と観光客が一緒に集う場になっています。

帯広市の「北の屋台」も参考にしたという「みろく横丁」



5.

地域特性を活かしたエネルギー戦略

東日本大震災による原子力発電所事故を契機に、再生可能エネルギーの果たす役割が大きくなってきました。特に、地域資源を活用する再生可能エネルギーの重要性は大きくなっています。それまで域外に漏出していた資金が域内にとどまることでの経済効果も大きく、紋別の成長戦略にとっても再生可能エネルギーの取り組みは重要なテーマです。

オホーツク地域は、広大な空間を生かし再生可能エネルギーの拠点として高いポテンシャルがあります。環境への負荷が少ない太陽光やバイオマスなどの再生可能エネルギーの導入を一層進めていくことが必要で、再生可能エネルギーの導入拡大によって、関連産業の育成や雇用の創出を見込むことができます。

施策の方向1 / 太陽光発電、風力発電の導入

再生可能エネルギーの分野では、太陽光発電が最も導入が進んでいます。今後も住宅用太陽光発電システムだけでなく、産業用や公共施設などでの導入を進めています。また、風力発電については、紋別らしい自然景観や環境を損なうないように、充分に配慮をして進めていく視点が必要です。



紋別市内の太陽光発電

施策の方向2 / バイオマス発電等の調査研究

動植物などから生まれた生物資源を活用したバイオマス発電には、林地残材を活用した木質バイオマスと家畜排せつ物などを資源とする農業バイオマスがあります。木質バイオマスについては、すでに紋別市内で本州大手による大規模な木質バイオマス発電所の建設が進められています。今後は、家畜排泄物などを利活用した環境に優しいバイオマス発電等の調査研究も進め、自然循環型の機能を維持・増進していくことが必要です。さらに、発電だけでなく、その際に発生する排熱をエネルギーとして利用する方向も検討していくことが必要です。



建設が進む紋別市内の木質バイオマス発電所

施策の方向3 / 雪氷エネルギーの活用

雪氷熱利用が北海道の各地で進んでいます。これは冬の間に降った雪や冷たい外気を使って凍らせた氷を保管し、冷熱が必要となる時季に利用するもので、積雪寒冷地の気象特性を活用した取り組みで、紋別地域の特性を活かしていくうえでも着目すべきです。今後は農業や水産業の生産物の貯蔵保管などの利用に向けた検討が必要です。

冷房や貯蔵庫に雪氷エネルギーを活用

雪冷房のマンションや米の貯蔵施設などに雪氷エネルギーを活用しているのが美唄市です。また、稚内では雪氷エネルギーを活用してジャガイモを低温貯蔵し、付加価値を高めて販売する企業が見られるなど、道内各地で導入が進んでいます。

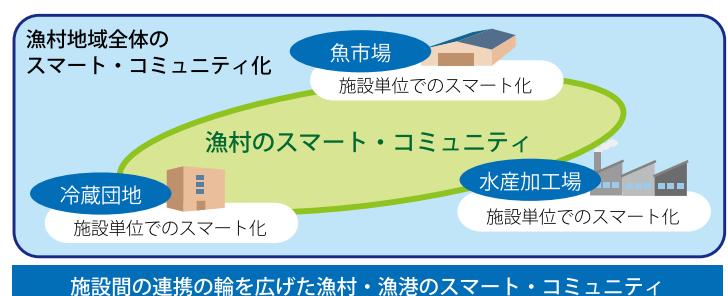
稚内市内にある雪氷エネルギーを活用した貯蔵庫



施策の方向4 / スマートコミュニティに向けて

地域資源をエネルギーとして活用していく上で大切なことは、エネルギーの供給側だけでなく、消費の視点からの取り組みです。太陽光や風力、バイオマスなど地域の資源を活用しながら地域主体のエネルギー供給を進めるとともに、一方で、エネルギーの消費を最小限に抑えていく社会システムをつくり上げていくことが重要です。そのためには供給と消費を地域全体でより効率的にマネジメントしていくスマートな地域システムが必要で、それを実現していくためには、住宅や事業所、公共施設などをITネットワークでつなげ、全体のエネルギーの供給と需要の「見える化」を進めていく必要があります。

エネルギーを有効活用する次世代の社会システム構築に向けた実証的な検討を進めていく必要があります。



漁村・漁港のスマート・コミュニティのイメージ図(農林水産省のHPをもとに作成)

6. 雇用機会の創出

雇用の維持・創出は非常に重要なテーマで、これからは雇用政策を地域が主体的に進めていくことが大切です。地域の雇用戦略には、雇用創出力のある産業を呼び込み育成していくこと、地域内で雇用機会を安定的に生み出していくために雇用調整の仕組みを地域で主体的につくり上げていくことの二つの方向があります。

施策の方向1／雇用効果の大きい産業の育成、誘致

地域において自立した足腰の強い経済構造を構築していくためには、あらためて雇用創出力の高い産業を誘致・育成していくという視点が必要です。そのためには、地域内の需要に向き合うサービス産業に着目していくことが必要です。具体的には、医療・福祉・介護サービス産業、観光関連産業などが挙げられます。

施策の方向2／地域独自の雇用調整

地域内で安定的に雇用を維持・創出していくためには、求人と雇用の間を機動的につなぐキメの細かい調整や斡旋の新たな仕組みが必要です。地域が主体となって積極的に雇用調整に関与していくことが大切です。

施策の方向3／高齢者雇用、女性の雇用拡大に向けて

起業や新産業分野への展開を図っていく上では、これまで以上に働く意欲のある高齢者の経験を有効に活かすような就業支援を進めていくことが必要です。また、女性が子育てと仕事を両立できる環境づくりに努めていくとともに、女性のネットワークを生かしながら、子育てと仕事を両立できる環境づくりや企業・団体での体制づくりを進め、より地域内の雇用を拡大させていく必要があります。

1. 紋別の地勢特性を活かす

紋別は比類ない地勢環境に恵まれています。オホーツク海は氷河期の環境や歴史を今に伝える地球上でも稀な海です。水産資源の宝庫でもあり、世界に誇る味覚を生み出し、さらに大雪山系の広大な森林がおいしい水と清浄な空気を提供してくれます。これらの豊かな地勢環境を活かしていく視点が欠かせません。

安全な地域条件を活かす

紋別は、自然災害が非常に少ない地域です。例えば、わが国は台風の常襲国ですが、紋別に台風が到達するときにはその勢力は衰えていることがほとんどです。また、火山もなく、津波の心配もありません。地震の発生も少なく、特に強震度の地震発生の確率が低い地域です。「自然災害の少ない地域」である特性をリスク分散による企業立地、工場や試験研究機関などの立地の誘致、さらには移住や観光などの面で活かしていくことが大切です。

2. 特異な自然環境条件を活かす

オホーツク海は世界で最も低緯度の凍る海、海氷南限の海で、氷縁海とも呼ばれています。これは地球の冷源と熱源の境目であり、海洋と大気の循環や気候変動を予測する上でも重要な位置を占め、気候変動予測研究にとっても極めて重要な海域です。こうした特徴とともに、紋別地域の歴史・伝統は、わが国にとって大変貴重な財産で、これを活かしていく視点が必要です。

施策の方向1／オホーツクの海はエコロジー研究の宝庫

1965年の北大流氷研究施設の設置、1986年の北方圏国際シンポジウムのスタート、翌年の流氷碎氷船「ガリンコ号」の就航、1996年の世界初の氷海観測展望施設「オホーツクタワー」の建設など、紋別市では調査研究から観光交流まで、幅広い活動拠点としての実績があります。今後も、流氷をはじめとするオホーツク海の気象・海象・生態系などを総合的に調査研究していくオホーツクプログラムの充実に努めます。また、オホーツク海沿岸都市との連携により、気候変動研究の最先端となる研究機関を誘致します。



30回以上の実績を誇る北方圏国際シンポジウム

3.

首都圏とダイレクトにつながる優位性を活かす

現在、羽田空港に直行便が就航している国内の地域は57か所。離島や観光地が含まれているので、県庁所在地レベルの都市でも首都圏と直接航空ネットワークで結ばれていない都市が多いのです。その中で紋別が羽田との直行便を有していることは貴重なツールの一つです。首都圏と航空路で直接つながっている優位性を積極的に活用していくことが重要です。

施策の方向1 紋別空港の利用拡大に向けて

紋別空港の利用拡大は観光戦略、食の地域ブランド戦略と連携しながら進めていく必要があります。首都圏での紋別の認知度を高め、その魅力を発信していく方策を検討します。また、紋別とつながりのある首都圏の企業や店舗との連携でインセンティブツアーを企画提案していくことも有効です。他空港との連携による広域的な周遊ルートの開発に取り組んでいくことも重要です。地域を挙げての取り組みが必要で、市民が積極的に利用機会を増やしていくことも大切です。

【想定される空港利用拡大の取り組み事例】

- 首都圏における紋別アンテナショップの検討
- 首都圏の釣具店との提携によるフィッシングツアーの展開
- 首都圏における住宅購入者を対象にしたツアー企画

成長を支える基盤の整備と活用



地域が発展していく上で、経済活動や生活を支える社会資本の整備は必要不可欠のものです。一方で、厳しい財政環境や補修・維持・管理コストの高まりなどから、社会資本の新規投資については重点的に進めていかなければいけません。

1.

高速道路ネットワークの整備～地域の医療を支える高速道路～

紋別市を中心とするオホーツク中・北部の広域圏域では、道路整備による高速交通ネットワークの形成が極めて重要な課題です。中でも医療機能へのアクセスは紋別にとって大きな課題です。近隣都市病院の産科休止などにより、出産時の医療機関へのアクセス、緊急時に高度な医療へのアクセスなどが深刻なテーマになってきています。より高速で安定してアクセスできる高速道路ネットワークの形成に向けて、要望を重点的に進めていく必要があります。



遠紋地区では安心して
お産ができる状況(平成27年10月1日北海道民友新聞より)

2.

港湾、空港の活用

施策の方向1 港湾機能の多面的な活用

紋別港は、1975年に重要港湾の指定を受けましたが、周辺地域の産業活動に係わる物流の拠点として、また沖合、沿岸漁業の基地として重要な役割を果たしてきています。また、流氷研究の拠点としての位置づけがなされた特徴のある港でもあります。今後は、貿易の拡大や紋別港の貨物利用の拡大に向けた取り組みを進めるほか、将来の北極圏航路に向けて、紋別港が果たすべき役割についての検討も進めています。



特徴ある港を活かした多面的な活用を

施策の方向2 紋別空港の有効活用

道内外との観光交流の拠点、ビジネス交流の拠点として、紋別空港の機能強化と利用促進を進めています。また、安定的な冬季航空の確保に向けた整備促進に向けて取り組んでいきます。インバウンド観光客の増加に対応したチャーター便の就航に向け、ハードとソフト両面の整備を図り、積極的な誘致活動を進めています。



紋別空港の機能強化と利用促進を

1 みんなで担う紋別のまち

紋別地域の成長発展は、経済団体である商工会議所の活動だけでは限界があります。市民が主体となって、三つの柱での活動をみんなで実践していくことを提案します。

① 紋別を知ろう！

歴史、伝統・文化だけでなく、産業活動 雇用実態、さらに人口の動きなど、地域経済の実態を実証的に客観的な情報分析を心がけて、科学的に地域の特性や動きを理解していく姿勢を持つことが大切です。また、積極的に外に出て、外から紋別を客観的に見つめていく機会を持つことも大事です。

② 紋別の資源を活かそう！

地域産業戦略では地域資源と結びつきのある産業を育てていくという視点が重要です。地域固有の資源と関連のある産業を育てていくことが持続性のある産業につながります。

③ 紋別の魅力を伝えよう！

紋別の魅力を発見し、自覚し、それを発信していくことが、地域の人々のモチベーションを高め、実践的な活動につながっていきます。それは地方の醍醐味でもあります。グローバル化の進展によってあらためて地方の価値が見直されてきています。

2 広域的な連携

隣接する西紋地域の商工会との緊密な連携を進めていく必要があります。また、オホーツク管内には6つの商工会議所があり、2015年4月に連携協定を締結し、今後は幅広い分野において広域連携事業を進める事例になっています。本ビジョンの推進も連携協定による事業との連動により一層効果を高めていくこととします。また、シニックバイウェイの活動は、既存の行政区域を超えた新たな活性化につながる可能性があり、層雲峠・オホーツクシニックバイウェイルート（現在候補ルート）は旭川圏からの新たな観光流動を呼び起こす契機になる可能性を秘めているので、積極的に推進していく必要があります。

3 推進に向けての商工会議所の役割

経営相談や融資等の資金相談などに加え、今後は戦略的な経営の参考になる事例収集や人口減少に対応して域外から稼ぐ視点を意識した経営など、より一層の支援活動を進めていきます。また、情報発信や企業間連携支援など、業種交流の機会も増やしていきます。新事業の展開に向けてはビジョンと連動しながら、きめの細かい支援を進めていきます。さらに、中小企業振興に向けて基本となる条例制定に向けての検討を進めています。

紋別成長戦略ビジョン策定の経過

平成26年3月26日	紋別商工会議所(会頭:知見喜美男)第92回通常議員総会において紋別成長戦略ビジョン(仮)検討特別委員会の設置を可決
6月19日	第1回 紋別成長戦略ビジョン(仮)検討特別委員会 開催
9月29日	第2回 紋別成長戦略ビジョン特別委員会(委員長:畠中正義) 開催
10月6日～11月12日	紋別商工会議所常設5委員会において紋別成長戦略ビジョンのテーマについて意見交換
平成27年1月23日	第3回 紋別成長戦略ビジョン特別委員会及び講演会 「人口減少下の地域戦略を考える」 開催 (講師:北海道大学公共政策大学院小磯修二特任教授)
1月24日	紋別成長戦略ビジョン策定に係る意見交換会 開催
5月19日	第4回 紋別成長戦略ビジョン特別委員会 開催
6月3日	第5回 紋別成長戦略ビジョン特別委員会 開催
6月8日	第1回 紋別成長戦略ビジョン策定委員会(委員長:小磯修二) 開催
6月末～8月10日	紋別成長戦略ビジョンの策定に係る基礎調査 実施
7月28日	紋別青年会議所とのワークショップ 開催
7月29日	紋別商工会議所青年部とのワークショップ 開催
9月25日	第2回 紋別成長戦略ビジョン策定委員会 開催
10月23日	第6回 紋別成長戦略ビジョン特別委員会 開催
10月29日	第7回 紋別成長戦略ビジョン特別委員会 開催
11月9日	第3回 紋別成長戦略ビジョン策定委員会 開催(紋別成長戦略ビジョン決定)
平成28年1月25日	第8回 紋別成長戦略ビジョン特別委員会 開催
2月22日	紋別成長戦略ビジョン記念フォーラム 開催



第3回策定委員会の様子

